

平成15年度英語教員指導力向上研修「授業改善プロジェクト」 番号 15019
研究テーマ:「授業と宿題の効果的な連動を目指して」

所属 高知小津高等学校
氏名 山崎正己
RG SH4

1 研究の背景

小津高校普通科1年4ホーム(男子17名女子23名)、授業者のホームである。早朝補習義務付けのクラスで、生徒は元気で明るく勤勉である。40名中37名が何らかのクラブに所属し、勉強と部活動の両立を目指して頑張っている。学習意欲も高く授業の取り組みも大変良い。あとは生徒がいかに主体的に学習し本物の学力をつけるかである。

2 リサーチクエスト

授業と宿題を連動させて、より高い読解力を身につけさせるにはどのようにすればよいか。

3 予備調査

予備調査3-1 授業観察の結果

やったことのある問題は概ねできるが、模試や校内実力テストなどで初めて見る英文の読解には時間がかかり正答率も低い。応用力がついていないのである。しかし課された宿題はよくやってくるのでその特徴を活かし、予習より復習に重点を置いた宿題をやらせることによって学習事項の定着を図り、読解への応用力をつけることはできないだろうか。

予備調査3-2 英語力を示すデータ

:1学期中間試験(英語I) 平均点 74.4 最高 97 最低 47

:1学期期末試験(英語I) 平均点 68 最高 96 最低 46

*試験は1学年8クラス共通

:スタディーサポートの結果

4月実施——クラスの強み = 読解力

9月実施——クラスの強み = 文法・関係代名詞

クラスの弱点(強化のポイント) = 読解力

(強みだった読解力が弱点に変わっている)

予備調査3-3 学習状況に関するアンケート(スタディーサポート[4月末実施])

普段の勉強の仕方

宿題のみ	予習中心	復習中心	予復習共	試験前のみ	授業集中	その他
2.5%	2.5%	40.0%	7.5%	12.5%	7.5%	27.5%

予備調査3-4 生徒の自己評価(%) (アンケート6月末実施)

英語は---大好き(20)好き(40)あまり好きではない(20)嫌い(20)

授業に集中できたか---できた(17.5)ややできた(57.5)ややできていない(25)

理解しようと努力したか---努力した(30)やや努力した(65)やや努力しなかった(5)

生徒の声-----「部活で疲れて思うように勉強できない」

「予習復習をもっとしっかりしたいが時間が取れない」

「単語をもっと覚えなければ」

4 仮説

予備調査を基に次のような仮説を立てた

仮説1: 語彙力がアップすれば読解力アップにつながって行くだろう。

仮説2: 既習事項を用いた mini essay を書くことで既習事項の定着度がより高まり
読解力アップにつながるだろう

仮説3: 音読を繰り返すことで既習事項の自動化を図れば読解力はアップするだろう

5 実践

<仮説1について>

- * 毎時間終わりの2分程でその時間に出てきた重要単語を口頭で確認する
(教師)日本語→(生徒)英語 (教師)英語→(生徒)日本語
- * 各 lesson の part 毎に単語の小テスト(文脈の中で覚える)。
- * 市販の単語集(桐原書店 Data Base 3000)で定期的に単語熟語のテスト。

<仮説2について>

宿題として各課の終わりに A4 1 枚の mini essay を書かせる。必ずその課で勉強した事項を入れることと用紙の下まで書ききることを義務付ける。

<仮説3について>

- * chorus reading の後ペアを組んでお互いの読みを相手に聞いてもらう
- * 各 part のまとめの後ペアでシャドウイング。
生徒に読みの練習は単に発音やイントネーション、リズム等「音」的な要素の上達だけを目指すものではないことを説明。

6 実践の結果

<仮説1について>

各課の part 毎の小テストのために空き時間や自宅学習の時間を利用し単語を覚えるという作業は定着した。単語集を用いた単語テストは再テスト該当者ゼロを目標にしていたが2学期期末試験までの15回中ゼロ達成は4回のみ。

<仮説2について>

定期テストの「～についてあなたの考えを英語で書きなさい。(3～5文程度)」というような出題に対してその課の学習事項を用いて英文を書くことはほとんどの生徒が抵抗なくできるようになった。

<仮説3について>

クラス全員に注目されるのが苦手という生徒が多いということがわかったので chorus reading 以外は主にペアで練習させた。これだと割合リラックスして読める。

7 結果の検証

スタディーサポート教科別診断結果

夏休み明けの9月の診断テストでは文構成以外は正解率が下がっている。47.1%→39.3%

11月実施の進研模試で長文読解が全国平均の得点率を超えた生徒は40名中15名。数値で見ると読解力は向上したとは言えない。一方英語の苦手な事項に「読解」を挙げた生徒は4月(35.0%) 9月(41%)2学期末(24%)。力はまだまだついていないが少なくとも苦手意識だけは減ってきていると言えるのだろうか。

8 成果と今後の課題

今回初めてアクションリサーチというものを行ってみて「欲張り」が自分のやり方の最大の欠点だということを感じた。何とかすっきりシンプルにと仮説の見直しもやってみたがうまく行かなかった。しかしそのうまく行かなかったことが次に何をすべきかを教えてくれている。仮説の立て方

や検証の方法をもっともっと学ばねばならないし、なによりもアクションリサーチを今後も継続して行ってゆきたいと思うようになったことは大きな収穫だった。